

2012年
3月15日

No.137

さざなみ

〒520-0043
大津市中央1丁目5-25
小堀マンション2030号室
さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-522-7868



東日本大震災1年 原発のない日本へ 列島各地で 集会・デモ

東日本大震災と福島第1原発事故から1年となった11日、犠牲者を追悼し、震災からの復興、原発なくせの願いを込めた行動が国内外で行われました。国内では47都道府県、150カ所以上で多様な行動が取り組みられました。福島県郡山市で16,000人、東京の井の頭公園で8000人、大阪の扇町公園で8000人、名古屋市で5000人など、家族連れや若者が多く参加しました。国外でも、韓国、英国、フランス、ベルギー、ルクセンブルグ、ドイツ、スイス、オーストリア、スウェーデン、ウクライナ、カナダ、米国、ブラジル、アルゼンチンなどで、「福島事故はどこでも起きる」と、原発ゼロを求めるデモが繰り広げられました。

大津市膳所公園では「3・11ばいばい原発・守ろうびわ湖」県民集会が開かれ、1000人以上が参加。さざなみネットからは2人が参加しました。

集会では、「違いを越え、声をそろえて『脱原発』を広げよう」「子どものために放射能も原発もなくしたい」「青い琵琶湖を後世に」など団体・個人10人がリレートーク。世界一の原発密集地・福井に隣接す



大津市膳所公園

る滋賀で、「福島をはじめ全国の『脱原発』を願う人々と連帯して取り組みを強める」と、アピール（裏面）を採択しました。

この後、参加者らはパレードとデモに分かれて行進。デモはシュプレヒコールを繰り返しながら歩き、関西電力滋賀支店前では「再稼働するな」と大合唱。長蛇の列が続き、道を隔てた歩道からも声を響かせました。

(裏面に続く)



岩波 美智子さん 画



福井県集会 すべての原発とさよならをする
決意を込めて「ふるさと」を全員合唱

商業用原発13基と高速増殖炉「もんじゅ」などを抱える日本最大の原発集中県・福井では、敦賀市のプラザ萬象で「3・11さよなら原発福井県集会inつるが」開かれ、原発が立地する地元で初の全県集会になりました。福井県内外から約1200人が参加しました。湖北原発ゼロの会では、午前中ドキュメンタリ映画「バベルの塔」を視聴し、原発問題連続学習会「原子炉の潜在的危険性」を聞いた後、「3・11さよなら原発福井集会inつるが」に参加しました。さざなみネットから2人が集まりました。

呼び掛け人代表の山本富士夫福井大名誉教授は「今やらなければならないことは原発に依存しない社会づくり。自然エネルギーの推進と省エネを徹底し、エネルギー政策の転換を図る必要がある。もう原発はいらない」と訴えました。

福島の浜通り医療生協理事長で原発問題住民運動

全国連絡センター筆頭代表委員の伊東達也氏が「福島からの訴え」と題し、原発事故の問題点を報告。「住民は避難生活で人生を根底から狂わされた。産業は停滞し、将来にわたって健康被害の恐れもある」と訴え

「日本の歴史上、最大最悪の公害」と強調しました。

反原発運動に取り組む県民らのリレートークのほか、参加者全員で、①すべての原発とさよならする決断を②高速増殖炉「もんじゅ」を今すぐ廃炉に③40年を超える老朽原発の運転を再開せず廃炉に、を確認。すべての原発とさよならをする決意を込めて「ふるさと」を参加者全員で合唱しました。約600人がJR敦賀駅まで約1キロを行進し、原発廃炉を訴えました。



「ばいばい原発・守ろうびわ湖」3・11行動アピール

東日本を襲った地震と津波による大災害、そして東京電力福島第1原発の重大事故から1年が経ちました。この東日本における大災害と原発事故によって、15,853人もの人々の生命が奪われ、いまなお不明者は3,282人となっており、避難・転居生活を余儀なくされている人々は34万人、原発事故から県外に避難し、ふるさとに帰りたくても帰れない人は6万人にも上るとされています。

震災により仕事をなくした人は数万人規模といわれ人々の暮らしと生業（なりわい）の復興は遅々として進まず、これに対して、機敏で有効な手を打てない政治の貧困が人々をさらに追い詰めています。また、原発事故による放射能汚染が復興を困難にしています。



しかも、野田政権は原子炉が「冷温停止状態」に達し、事故そのものは「収束」に至ったと宣言しました。今回の、事故の原因究明や全容解明もされないままの「収束宣言」には福島をはじめ全国から怒りの声が上がっています。野田政権が、事故の深刻さから国民の目をそらし「フクシマ」を過去の問題にして、原発の再稼働を進めようとしていることは明らかです。

私たちが住む滋賀県のとなり福井県の若狭湾には老朽原発を含む14基の原発群があり、重大な事故が起これば、いのちと暮らしが脅かされ、びわ湖が放射能に汚染され取り返しがつかないことになると、県民のなかに心配と不安が広がっています。すでに知られているとおり、若狭湾は活断層の巣であり、その危険性が識者から指摘されているなかで再稼働など、けっして許されるものではありません。

「フクシマ」の事故から1年目にあたる、2012年3月11日を「脱原発」「原発ゼロ」の日本を実現する新たな一歩に、そして、震災復興を住民の暮らし優先を基本に、急いで大規模に進める日にしなければなりません。「ばいばい原発・守ろうびわ湖」3・11行動に参加した私たちは、さらに大きな共同を実現し、福島をはじめ全国の「脱原発」を願う人々と連帯して取り組みを強めることを宣言します。

2012年3月11日

「ばいばい原発・守ろうびわ湖」3・11行動参加者一同

